

・鳥の博物館の利用	(資料3により説明)	館
に関するアンケート	<p>・前回会議でモニター制度を利用してアンケートを取ることが可能と伝えたが、モニターの予定が詰まっていたため、急遽、博物館の方でアンケートを実施した。</p> <p>調査方法は電子アンケートと紙アンケート。QRコードを載せたポスターを市内公共施設に掲示し、HP、チラシも公共施設等に置いた。</p> <p>電子アンケート270票、紙アンケート130票、有効回答数400票。</p> <p>詳しい分析等は今後改めて報告予定。</p>	
・その他	(事例施設面積資料により説明)	乃
	<p>・海外事例は正しい面積がわからないものがいくつかある。</p> <p>メルボルンの8万㎡は単体なのか、いくつか集積している博物館の総計か不明。</p> <p>高尾ミュージアムは国内だが、展示面積はおよそ3分の1から半分くらいではないか。プラハは展示面積の割り出しも考えたが不正確になるので全体面積で示している。</p>	
質疑応答等	<p>・科博も毎年来館者アンケート(QRコード読み込んで)をとっている。</p> <p>苦言のようなものがあると改善策を考えるのに使うが、何かそれ以外の分析の仕方が考えられるか。</p>	西海委員
	<p>・資料2を見ると、10歳までが38%、10歳から20歳まで12%となっていて、5割のようだが、若い人の割合が多いがなぜか。学校で来るのと、家族に帰って土日などで家族で来るのか。他県が一定程度いるが、鳥の専門の博物館というところから来ているように感じた。</p>	福井委員
	<p>・資料3アンケートQ6の「きっかけがない」は、何かひっかけがあれば来てくれるのでは。そういうところがリニューアル検討に関係するし、広報や告知がきつと課題になる。</p> <p>年齢の若い人が多い理由を知りたい。</p>	
	<p>→親子で来て子どもに書かせているので多い。また、資料2の来館者の意見・希望数の73の母数が来館者全体を表しているのかを考える必要がある。学校の市内の見学のときは、書く時間がないと思うのであびっ子クラブや放課後児童クラブで来た時に記入したり、あるいは、おじいさんおばあさんと、親御さんなど大人の意見を反映させたものと見受けられるものもある。資料3の鳥の博物館の利用に関するアンケートは、無作為抽出できればもう少し客観的にデータが取れたかもしれないが、今回急に行ったので、市内中心、後はHPで呼びかけた。HPを覗かれる方、興味のある方がアンケートに答えるという傾向になっているのではと思う。じっくり分析しているわけでないが、今回初めての方が38%、2~5回目の方も38%となっていて、意外と初めての方が多かった。</p>	館
	<p>・行ったことがないのでなく、知らなかったとかそういう意見も散見されたのでそういう意味では今後力を入れていくポイントかと思う。</p>	小川委員
	<p>・資料2の円グラフの図(38%、12%)の数字がずいぶん多い。表記が二つ合わせた50%の割合になっていない。</p> <p>→確認して修正する</p>	平岡委員
		館
	<p>・資料3アンケート「Q6の行ったことがないのはなぜか」について、</p> <p>運営方針の中の広報活動に関することだが、バスやショッピングセンターで広報するなど、鳥の博物館を知らない人にも情報発信をしたほうがよい。</p>	森委員

		・特別展のことでは、標本の訴求力が大事。収蔵庫問題も含め職員の作業環境を整えることも改善するのが大切。	
		・鳥の専門の博物館として日本唯一のもので、標本も充実しており、科博も資料を借りたりしている。自然史博物館にとって全国的に見てもすごく価値のある重要なことをされていると思うので、収蔵庫を充実させていくことは大事。考慮してほしい。	西海委員
		・広報について、周辺との連携状況を教えてほしい。	平田委員
		→水の館に手賀沼コーナーあり、じゃぶじゃぶ池で散策したり遊んだりセットで来る。道の駅やキャンプ場に来た人にはパンフレット等があり。手賀沼、白樺文学館、杉村楚人冠記念館は歩いて回れる。秋口など季節のよいときに、3館共通券があるので利用しているだろう。意外と鳥の博物館1か所狙いで来る方も多いと思っている。我孫子のヨーカドー、ファミリーレストランやカフェのランチに来たなどその他の欄に書いてある。	館
		・自由記述のところなどネガティブな意見はあるか。	小川委員
		→ジャイアントモアがなぜここにあるのか。野鳥でない鳥、生きた鳥とか動物も置いてほしいという意見が見受けられた。	
		・アンケートに書いてある意見は、個人のものと思う。団体のケースはどうなのか知っておきたい。学校教育の一環として児童を引率して来るのもあるし、私共のような市民の対象団体が手賀沼周辺で探鳥会をやって、探鳥会の後に博物館に連れてくることを年何回か行っている。	相良委員
		→団体の割合は出していないが、今年は増えてきている。ただ、コロナ前まで戻っていない。そのあたりは調べていきたい。	館
		→コロナ前と両方必要と思う。	相良委員
		・HPIは充実していてすばらしい。ふくろうのライブカメラとか、充実しているのに、それを知っている人はどれだけのいるのか。例えば、SNSで知らせるとか。学芸員に話を聞くとよりおもしろい部分があるため、もっとそれを伝えていけばよい。	中井委員
		・学校の教員をしているが、資料1のおもしろいについて、子どもたちは、あまり知らない子が多い印象を受けるが、市内見学の後には鳥博が楽しかったという声が多い。子どもや親御さんも含めてどういうふうに伝わっているか浸透していない部分があるので、きっかけ作りが大事。たくさんイベントを広報にも載せているのでそのあたりを知らしめる方法を改善できればと思う。	神野委員
②	鳥の博物館の展示上の課題と改善策	(資料4により説明)	館
		1.手賀沼の鳥	
		1-1. 大きな課題は手賀沼の冬のジオラマは1980年代のデータをもとにしていて古い。デジタルサイネージを活用して変化についての解説も入れていきたい。	
		1-2. 環境に関する情報も壁面に情報パネルを入れているので更新が難しく、デジタルサイネージを活用した手法に更新していきたい。	
		1-3. 春夏秋冬並んでいて一番大きい冬のところのガラスの仕切りがないので、清掃などメンテナンスをやすくしたい。	

	2.日本の鳥	
	もっとも来館者のリクエストが多い一つだが常設展示がないのが大きな問題。	
	日本産鳥類の標本の展示を新設したい。多目的ホールの壁面または企画展示室をそのまま使った形で収蔵型の展示としてできるだけたくさん情報を見てもらうような構成の展示にしたい。それに付随して鳥類の多様性だったり分布の特徴など日本の鳥の特徴を知ってもらう展示を考えている。	
	3.鳥の起源と進化	
	3-1. 手賀沼の鳥と同様に1980年代の科学的知見を中心とした構成になっていて、30年間でかなり新たな知見が得られた分野なので情報がかなり古い。恐竜から鳥に至り、発見された化石や系統進化の研究などを盛り込んだ内容に更新したい。手法はとりあえず、恐竜と似ているところとそうでないところを答えるような展示や鳥の現在、どのようにして生き残ったかどう形を変えることで現在まで生き残ってきたのかを示すような展示にしたい。	
	3-2. モアは人類の活動によって絶滅した。人間の乱獲によって絶滅した鳥と、人間が出てくる何千万年も前に絶滅してしまった鳥の違いが、かなりわかりにくい構成になっていると思うので改善したい。	
	4. 世界の鳥	
	館全体として最大の展示室を充実していくことを検討したい。	
	中央のスペースに展示ケースやその他のデジタル手法を用いた展示機能などを増設して、鳥類の生態や形態や生理などについて解説するコーナーを設けたい。	
	飛翔コーナーで鳥の翼の形態を紹介しているので、一部世界の鳥コーナーへ移動させ、実際の多様性を見ながらその機能がどうなっているか、暮らしはどうなっているのか見られるような作りしていきたい。	
	4-2. 一部の標本がかなり古いので更新したい。	
	4-3. 全ての「科」について解説パネルを設けるコンセプトで作っていたが、細分化されて現在300以上あって、同じコンセプトで更新するとなじみのない鳥にたくさん詳しい解説が増えて来館者にとって見にくいものになるので、「科」から全ての「目」に変えていく。	
	5. 鳥の保全	
	5-1. 飛翔コーナーとして使っている部屋全体を鳥の保全をテーマに改変を考えている。人と鳥の共存を目指してというテーマを掲げているが、実際はそれに関する展示コーナーが限られている。かつ1980年代に行われた有名な海外の保全活動やトキやコウノトリなど国内の飼育して保全事業が行われているごく一部の種類に限られた紹介しかなかった。現在は様々な事業が行われているし、価値観が異なる考え方が一般に普及しているので変えていきたい。	
	5-2. 現在の展示は抽象的なことが書いてあり、鳥と人は友達だから守りましょう、かわいそうだから守るというようなことは大事であるが、鳥類の多様性を守ることは私達自身のためにもなるということを理性的に解説していきたい。具体的には人と鳥の関係の歴史は1万年以上あるが、人がどう鳥と関わってきたか外観する解説をし、どういう原因で鳥が減ったのか、現在どういう形で保全が行われているのかを紹介したい。特に、ここに挙げた3種類の鳥は、山階鳥類研究所さんが保全活動を積極的に取り組んでいる。そうした保全活動の成果を紹介できるとよいと考えている。	

	<p>質疑応答等</p>	<p>・現代的に内容がアップデートされていて、よく練られている。実現するのが本当に楽しみ。</p> <p>一つ検討してほしいのは、アンケートには昆虫みたいなものも入れてほしいというようなことがあった気がするが、やはり今、生物多様性が問題になってきて、その中ですごく鳥が大事な位置を占めていると思う。捕食者としても非常に大事な位置を占め生態系の中で大事になっている中で、餌となっている昆虫も最小限何か見せていったほうがわかりやすいと思う。</p> <p>特に、最初に手賀沼の鳥のコーナーが出てくるが、地方の博物館というのはそれぞれ地方の特色というのが大事で重要になってくるものだが、地味になりがちだと思う。</p> <p>その中に、最後の多様性ともつながるような、そういう手賀沼あるいはその周辺ではどう生態系のつながりがあるのか見せられると理想的と思う。</p>	<p>西海委員</p>
		<p>・とてもよいプランだと思う。地域博物館なので手賀沼に力を入れているのが前提だと思う。</p> <p>千葉の県立博物館に勤めている立場でどうしても県のことに目線が行きがちな中で、鳥の博物館は自治体の垣根を越えて生物を扱うところで日本や世界の部分についても是非力を入れることを大事にもらえるとうれしい。</p> <p>科博の展示で日本列島の展示がとても好きだったけれども、日本という場所はプレート境界に位置する島国というところで、世界でも本当に生物にとって面白い地域と感じる。その中でそのことを取り入れて示すというのは意義があると考えていて、鳥という生き物が本当にいろいろな生き物の中でもちょうどいいことがいっぱいあると考えている。その分布域であったり行動圏の広さであったり、地理的な特徴を示すにはカタツムリとかゴミムシとかのほうが示しやすい話もいっぱいあると思うが、鳥で示すというそのちょうど良さがたくさんあると感じると、やっぱり、鳥は可愛いし、プランクトンに比べ目に見える、親しみやすい生き物だと思う。</p> <p>日本の面白さを伝えていくというのは非常に意義深いと思うので是非頑張ってくださいと思う。</p> <p>鳥だけに特化するのではなく鳥の面白さ、食物連鎖などに目を向けると、その生育環境とか餌生物とかというもので鳥を入口にいろいろなものへの興味のきっかけにできるということも生物の中で特に鳥が優れている点だと思っている。例えば、世界の鳥の中で鳥の運動機能について飛ぶというところで、例えば、昆虫とかコウモリ、ムササビとかいろいろな空中を飛ぶ生き物を出す場合、標本とかで示すことによって、生き物が好きな人にも満足してもらえる展示ができる気がする。あるいは最後の保全のところでは、例えば、トキとかを指標とした農業振興が今盛んに行われているが、なぜ、コウトノリやトキを指標にするかというやはり最初にやったということも大きい。が、地域のシンボルになるという話。あとはそれを守ることが環境を守ることにつながり昆虫とか他の生き物についての展示もしやすくなると思う。特に、近隣の野田とかではコウトノリの話も盛んになってきているので我孫子でやる意義はあると感じる。</p> <p>千葉県は恐竜が発見されていない都道府県なので、県立館だが、恐竜の展示がない。それに対し非常にがっかりされる機会が多い。恐竜の有無はもう来館者の満足度への影響も絶大と痛感しており、鳥博なら恐竜展示ができると思う。標本でなくてもよいと思うが、レプリカとか模型とかあると子どもたちは喜ぶかもしれないというのはすごく感じる。</p> <p>あとは、「圧倒された」「綺麗だ」という意見がたくさんあったが、美術的な価値とか、圧倒的な標本の力というのやはり鳥の力だと思う。鳥の標本・剥製がずらっと並んでいるのを見ると科学的な刺激だけでなく、来館者を満足させることができると思う。</p> <p>資料3アンケートで本物の鳥を置いてほしいという意見もあったが、鳥博はフィールドミュージアムがあるので不要だと思う。</p> <p>4-3については、圧倒されるような多様な鳥の展示を目指していただけたらと思う。</p>	<p>平田委員</p>

		・限られたスペースで展示する場合、剥製などではスペースの問題が出ると思うので、少しITを駆使して、デジタルサイネージや動画を使う必要もあるだろう。	相良委員
		教育施設として、子どもが何を知りたいか。子どものなぜに答える。例えば、カワセミがものすごく綺麗だねといったときになぜ綺麗か答えを、ビジュアルで説明できるようなものがあるとよい。速く飛べる鳥はこういう仕組みだから、というようなことがあると子どもたちの興味が深まる動きとか動画を入れるなど多面的な展示をしていただけるとさらに素晴らしい展示になる。	
		・アンケートの中にあつた子どもにわかりやすいというのは、間口を広げ過ぎると難しい。対象年齢をどこに絞っていくか。何か考えはあるか。	小川委員
		→小学校中学年から高学年を主なターゲットと考えている。	館
		クイズコーナーを刷新したり、ぬり絵等で小さい子にも楽しんでもらう考えている。	
		・収蔵型展示はいい考えだと思う。本剥製が主となるのか	鶴見委員
		→日本産の鳥類の全ての羽衣の本剥製を揃えることを重要なコレクションポリシーとしている。	館
		現在比率として、本剥製3000くらい、仮剥製は500くらいになっている。	
		標本を集め続けていくためにも、市民に見せるのも重要な観点であり、一挙に解決できる方法法として、収蔵型展示がよいと考えている。	
		・新しい知見が出たときにすぐ対応できないということもあるので、学芸員が何か新しい知見が出たら、デジタル型のパネルなどで更新できるとよい。	鶴見委員
		・1-2はデジタルで、市民が集めた情報を入れるとか館の人がやりやすい簡便なものがよい。科博で関東大震災の展示をしている、デジタルデザインの先生が作成した「広島アーカイブ」というサイトを紹介しているが、グーグルアースを使って当時の爆心地とか爆撃前の写真、残ったところを地図でプロットしていく可変性のあるものを作られている。無料のものを活用していくことも必要と思う。	福井委員
		・子どもたちの学習を考えると、最新のものだけでなく、2つが(1-1、1-2)融合するような展示とか、手賀沼の鳥と変遷と環境がどう関わっているかというのも考えていただけると、学校としてはすごく使いやすいコンテンツになる。小さい子の疑問に答えるようなスポット展示みたいなものがあると、飽きずに見学できたりする。	神野委員
		・テクノロジーにどう魂を入れるか。デジタル系に偏りすぎるのもよし悪しなので検討しながら進めるのがよい。要所要所に実物でインパクトを与えるのも大事だろう。	平岡委員
		・モノも大事だと思うが、バーチャルミュージアムのようにネットで見れるというのも価値があるのでは。見たら、館に実際に見に行くことにつながるのではないか。	相良委員
		・1階に収蔵庫があると水害の心配がある。長期的な視点で別の公共施設に分館という形をとるといふ検討も必要では。そうすれば、スペース問題にもプラスになると思う。	森委員
		・鳥の博物館で何をもって帰ってもらうかが大事。鳥は生態保全を考える上でかけがえのないものだと思う。例えば、火山島ができて人が住めるような環境ができてくるまではファンをして、それは人の資源になったりリン鉱石ができてたりする。鳥が自然環境や生態系に与える役割を5-2かあるいはどこかふさわしいところで是非盛り込んでほしい。	平田委員
3	事務連絡	次回委員会は1月。12月に日程調整の予定。	
			以上